

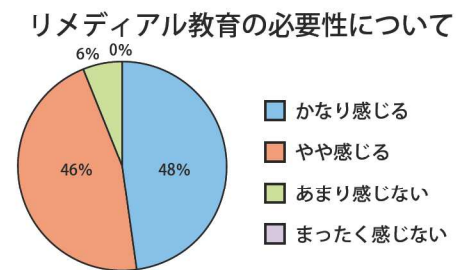
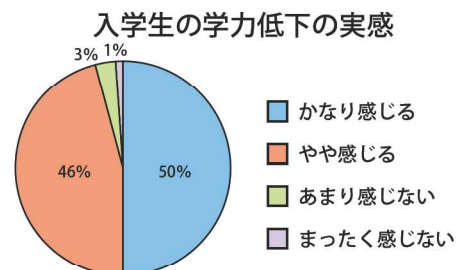
専門学校における「リメディアル教育の現状」について～アンケートより～

株式会社 ウィネット 専門教材出版事業 統括部長 猪俣 昇

基礎学力の低下は、年々深刻さを増しており、大学をはじめ専門学校においても切実な問題となっています。その要因として「ゆとり教育」での履修科目の減少、授業期間の減少、AO入試をはじめとする入試の多様化、18歳人口の減少などが挙げられています。そのような中、入学後の専門科目の講義や演習を円滑に受講できるようにサポートする目的で、小中高までの未履修科目の補完や学力不足の補習（基礎科目のおさらい）、基本的な学習習慣の習得、専門科目を学習するための準備などをする、いわゆる「リメディアル教育」を実施する学校が増えております。今回は、専門学校でのリメディアル教育への取り組みについて、アンケート結果に基づき、その現状についてご紹介いたします。

リメディアル教育の必要性

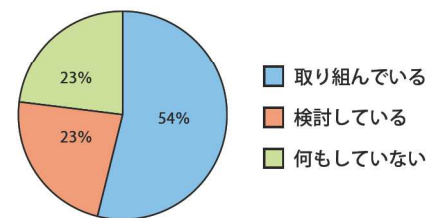
今回のアンケートで入学生の「学力低下」を感じている学校は全体の96%（かなり感じる50%、やや感じる46%）にのぼりました。また、リメディアル教育の必要性については、かなり感じる48%、やや感じる46%を合わせると全体の94%の学校が必要性を感じているという結果となりました。また、まったく感じないと回答した学校は0%で、入学生の学力の低下が入学後の指導に影響している背景がうかがえます。



実施状況

リメディアル教育の必要性を感じるという割合が94%あったにも関わらず、既に何らかの取り組みをしていると回答した学校は全体の54%に留まりました。また、検討している、何もしていないと回答した学校は合わせて46%であり、その理由として「リメディアル教育の必要性を感じてはいるが、専門科目の授業以外に時間を割けない」「指導する教員の負担が増える」「学生のモチベーションがあがらない」など“取り組み方”について苦慮している意見がみられました。

「リメディアル教育」への取り組み



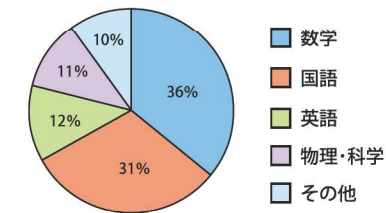
また、取り組んでいる学校の実施のタイミングは「入学前」が25%、「入学後」が75%でした。さらに「入学後」に実施している教育の内訳としてはカリキュラムに組み込んでいる割合が最も多く72%、放課後の課外授業（個別指導含む）が11%、ホームルーム等の短時間で指導しているが9%、自宅学習用に課題を与える8%でした。注目したいのは、入学後、授業の一環としてカリキュラムに組み込んで実施している学校において「就職指導の一部として実施している」という回答が「専門知識習得のための入門学習として実施している」という回答よりも多くあったことです。就職試験において基礎学力が低いために内定に結び付かないケースもあり、2年制学科においては限られた時間の中で入学直後から“就職”を意識した基礎学力に関する指導も行わなくてはならない実態がうかがえます。

何を指導しているのか

学力不足の補習（基礎科目のおさらい）を目的としたリメディアル教育で行われている科目については数学が最も多く36%、次いで国語31%となっています。

それぞれの科目を指導している主な理由として、数学では「面積や濃度、割引率などの計算ができないため、小数や分数の計算を基礎から指導している」国語では「語彙や表現力が乏しいため問題文を読んでも問われていることが理解できない、短い文章すらまともに書くことができないため」などがありました。

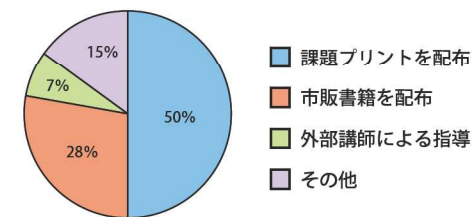
リメディアル教育で使用している科目



実施の方法

半数の学校が課題プリントを配布、次いで市販書籍の活用、外部講師への依頼の順となっております。プリント配布では、先生方がプリントを作成する手間がかかること、市販書籍の活用では、どのようなレベルの教材を選ぶか見極めが困難であるという意見が見られました。

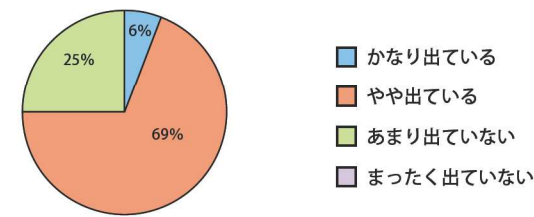
リメディアル教育の実施方法



実施の効果

75%の学校で「効果がある」と回答しています（やや出ている69%、かなり出ている6%）。効果の測定方法で一番多かったものは、実施前と実施後で同レベルの確認テストを実施して点数を比較する方法が66%でした。一方で「あまり出していない」という回答が25%あり、そもそも学習習慣がない学生に課題を与えても効果はでない（学習をしない）という意見も聞かれ、効果があると回答した学校の中にも「学習に対する意識づけができた」「学びとる力が身についた」など学力の向上よりも学生の“意識”の変化に対して“効果アリ”と考えている意見も見られました。

リメディアル教育の実施の効果



専門学校におけるリメディアル教育の方向性

現在、専門学校で行われている「リメディアル教育」のほとんどのケースが、学力不足の補習（基礎科目のおさらい）です。今回のアンケートでは、入学後にカリキュラムに組み入れて実施しているという回答が多くなりましたが、入学前に課題（問題集や視聴覚教材、Webラーニングなど）を与えるケースや外部の講師による授業を実施しているというお話を聞く機会も増えてきました。

また、弊社が過去に実施した調査では、効果が表れやすいのは、ある程度、基本的な学習習慣が身についている“中領域レベルから、やや高領域レベル”の学生であり、基本的な学習習慣が身につけていない学生には、ほとんど効果が見られないという結果でした。リメディアル教育の概念には基本的な学習習慣の習得も含まれますが、入試の多様化により入学してくる学生のレベルに大きな差がある中、どのレベルに合わせた指導をすれば良いのか、基本的な学習習慣のない学生に対してどのように対応すれば良いのかは大きな課題であり、最後は現場の教師が“手をかけて勉強の仕方を教えざるを得ない”というのが現状のようです。

今回のアンケートでは、入学してくる学生の学力全体の底上げ、あるいは学力の低い学生を飛躍的に向上させたという明確な“成功”という回答はありませんでした。そのような中で「実力テストの実施や課題を与えることで極端に基礎学力が低い学生（極端に低い学生はほぼ学習習慣のない学生でもある）を明確に把握することができるため、どの学生に手をかければ良いか明確になった」という意見や「目指す職業や資格と結び付けることで、基礎学力の必要性を理解させ、自ら学習しようとする姿勢がうまれてきた」という意見も見られました。

アンケートを通じてお話を聞く中で感じたことは、基礎学力の低い学生に対して一方的に課題を与え指導するだけではなく、学生が目指そうとする職業や資格に対して、明確な道筋を示し、目標を達成するために基礎となる学習の必要性をきちんと理解させることが重要であるということです。そのためには学習する癖を改めて身に付けさせること、さらには、その前段として職業感に対する意識づけを行うことが重要ということです。

専門学校という多岐にわたる分野の選択肢の中から、特定の分野に興味を持ち、将来を夢見て入学してくる学生の未来のためにも、今後も継続的にアンケートの実施や先生方との研究等を重ねることで“リメディアル教育の成功事例”ひいては、資格取得や就職へと結びつく好事例をひとつでも多く皆様にお伝えすることができればと考えております。

アンケートの概要

調査期間：H25年10月25日～30日
調査対象：全国の専門学校300校
(工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化教養) FAXによる実施。回答校数：272校

